

# 國學院大學學術情報リポジトリ

田中耕太郎の「人格の完成」思想：  
教育基本法の中のウラジーミル・ソロヴィヨフ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山崎, あすか, Yamazaki, Asuka メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/2391">https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/2391</a>

# 論 文 要 旨

学籍番号	203404	氏 名	山崎 あすか
論文題目： 田中耕太郎の「人格の完成」思想 —教育基本法の中のウラジーミル・ソロヴィヨフ—			
(内容の要旨) (最大 1,000 字程度)			
<p>田中耕太郎 (1890-1974) は、戦後の「教育基本法」(1947 年 3 月 31 日公布・即日施行) 制定にあたり、第一条・教育の目的を「人格の完成」とすることに固執した。本稿では、田中の「人格の完成」思想については、ロシア正教からカトリックに転宗したとされたウラジーミル・ソロヴィヨフ (1853-1900) の影響が至大であったことを検証する。「人格の完成」は即席に考案された文言ではなく、田中の生涯のテーマであった。そして、終戦直後の時代を引き受けた一人として日本にソロヴィヨフの思想が必要だと考え、決意をもって差し出した語である。本論文の目的はこの語を支える思想的バックグラウンドを検証することである。</p> <p>従来、田中の「人格の完成」に影響を与えたものとして、キリスト教カトリック思想のほか、ジャック・マリタン (1882-1973) による人格主義思想や自然法が指摘されてきた。しかし、この語は、田中がカトリックに転宗するきっかけとなったソロヴィヨフの最晩年の著作『善の基礎付け』に多大なる影響を受けている。</p> <p>たしかに、ソロヴィヨフとマリタンの生きた時代は少しく重なっており、ともに教皇レオ 13 世 (在位 1878-1903) の影響を受けた点で共通している。教皇レオ 13 世はトマス・アクィナス思想運動を展開した張本人である。また東方正教会との一致にも取り組んだ。</p> <p>田中は、内村鑑三 (1861-1930) の影響によりソロヴィヨフの本と出会い (1920 年頃)、ソロヴィヨフの世界全体を協同体とする「全一」の考えや、強制ではなく自由意志により人間が「神人」にまで成長する「完成」思想に惹かれた。田中はそのため、神と私の垂直な関係を重視する無教会主義から協同体を志向するカトリックに転宗し (1926 年)、ソロヴィヨフに関する論文を 5 本執筆した (1948 年頃)。</p> <p>田中はソロヴィヨフの思想のうち「人格の完成」思想を自らのものとし、田中の「人格の完成」思想をつくっていた。「人格の完成」とは、理性ばかりではなく知情意を備えた人格が、「ジェントルマン」「士 (さむらい)」あるいは「神の類像」になるという意味である。そして、教育基本法のこの語は、田中が重視した教育者らに向けた言葉であった。「人格の完成」は教育勅語のような道德律自体ではない。教育者は、自らの「真善美への愛」という「感情」がなす感化を「方法」とし教育せよ。ここにおいては当然、道德が含まれる。教育基本法において田中耕太郎が目指したものは全一的道德教育であった。</p>			
キーワード (5 語)			
田中耕太郎 ウラジーミル・ソロヴィヨフ 教育基本法 人格の完成 道德教育			